

# 「前に進み続けて」

令和2年度学校説明会（保護者向け）スピーチ原稿より

京都大学法学部1回生  
茨木高校72期卒業生

ちょうど4年前、中学3年生のとき、私は今日と同じように説明会に来ていました。そのときに聞いて、心に残っていた言葉があります。当時、茨高がスローガンとして掲げていた、「二兎を追う」という言葉です。『二兎を追う者は一兎をも得ず』ではなくて、勉強も、行事や部活も、全部一生懸命やるという意味です。この言葉が素敵で、私もそんなふうに高校生活を送りたいと思って、茨高を受験して入学しました。勉強は社会に出て役に立つからするとよく言われますが、私は、行事や部活のような、人と協力して、議論して、悩んで、何かを作り上げていく、そういう経験こそ、社会に出て役に立つと思っていました。そして、何より、行事や部活は楽しくて、達成感がありました。特に、中学3年生のときの体育祭がとても思い出深かったので、行事は高校に入っても積極的にやりたいと思っていました。

入学式の次の日、クラスで委員決めがありました。私は、宿泊野外行事委員会、つまり修学旅行の委員会に入って、委員長になるつもりでした。でも、その委員会に入りたい人が何人もいて、じゃんけんで決めることになり、私はあっけなく負けてしまいました。もちろん、委員長になることもできませんでした。

宿泊野外行事委員長になる夢は実現しませんでした。部活では「百人一首（競技かるた）」と「卓球」を兼部して、勉強も自分なりに頑張っていました。じゃんけんで負けたことはもう仕方がないことなので、委員長になっていた場合よりも、もっと充実した生活を送ってやろうという気持ちで、2年生の前期には、体育祭の委員長と、同じく文化祭の委員長の両方をやりました。他の幹部の人たちと議論して、行事を支えるという仕事は、本当にやりがいがあって面白かったですが、2年生の9月に体育祭が終わった後、期待していたような達成感はありませんでした。中3のときの体育祭のほうが楽しかったとさえ思いました。目の前の仕事にばかり夢中になって、楽しむことを忘れていたのかもしれないと気づきました。

1月には、妙見夜行登山がありました。妙見山まで往復約50kmを徹夜で歩く行事です。私は、書記という幹部の役職につきました。往復50km、別にとくにお楽しみもなく歩くという、ただ大変な、謎の行事ですが、終わった後、とても楽しかったという気持ちになりました。それはたぶん、自分で何かを抱え込むことなく、他の幹部にも頼っていたから楽しめたということだと思います。

3月には、音楽会がありました。私は必修の音楽に加えて、選択科目の音楽Ⅱをとっていました。ここでも副委員長をやらせてもらいました。音楽Ⅱの選択者は、音楽会で40分程度のミュージカル発表を行います。私たちは「サウンドオブミュージック」をやることを

決めましたが、その練習や準備が本当に毎日楽しかった。授業前や昼休み、放課後に集まって練習して、みんな一生懸命だけれど笑い合っていて、本番が終わった後には、この上ない達成感がありました。音楽会を終えて、全体、つまり、自分を含めたみんなにとって、一番楽しくてプラスになるように行動しようと思うようになりました。

3年生に上がって、今度は自分から積極的に楽しさをつくり出したいと思って、体育祭の応援団長になりました。応援団長は、団のトップである総長とは別で、太鼓に合わせた演技をする応援団を率いる仕事です。私は、音楽会で学んだことを心において、できるだけ楽しさを生み出すつもりで、自分の団の同級生や後輩と向き合っていました。自分も含めたみんなにとって、何が一番良いのかということを大事にして取り組みました。結果、私たちの応援団は優勝しました。みんなが心から楽しむこと、そこから「力強さ」が生み出されたのだと感じました。

体育祭後は、受験まで半年弱、猛勉強しました。私は、行事に力を入れていた一方で、同時に、勉強面でも、1・2年の時から自分なりに努力を続けていました。将来何をしたいか決まっていなくて、勉強ができないことで可能性を狭めてしまいたくなかったからです。もちろん、忙しい中で、二兎を追うためには、時間を最大限活用する必要がありました。私は豊能町というところからバスで片道1時間半近くかけて通っていましたが、バスでもできるだけ勉強していました。バスの本数が少なく毎朝8時前に学校についてしまうので、授業開始の8時半までは図書室で勉強するようにしていました。こうやって少しでも時間のあるときに勉強して、授業さえ集中して受けていれば、昼休みに行事の集まりに行き、放課後には部活をやって、家に帰ってからも行事の仕事や習い事をやっても、十分な学力を身に付けることができました。忙しかったのと、茨高の先生方が授業外でも勉強をサポートしてくださったので、塾には行っていませんでした。そして3月には、第一志望校であった、京都大学法学部に合格しました。

私の話を聞くと茨高生はみんな勉強と行事や部活に熱心なのかと思われたかもしれませんが、必ずしもそういうわけではありません。両立をめざす人もいれば、いつ見ても勉強している人もいるし、逆に部活第一の人もいます。勉強・部活・行事以外に自分の好きなことをやっている人ももちろんいました。私の思う『茨高』というのは、それぞれが、自分のやりたいことを実現できるという場所です。その過程では様々なことが自分に任せられる時には失敗してしまうこともありました。でもそこが終わりにはなりません。茨高では、ただ良い大学と言われるところに行くための教育ではなくて、真に価値があって、人生において大切な教育が受けられると、3年間の茨高生活を終えて感じています。

2020年11月19日